

## 2021-2022 年シーズンにおけるインフルエンザワクチン等の 接種に関する考え方

2021 年 10 月 8 日

予防接種推進専門協議会

### ● 2021-2022 年シーズンにおいてもインフルエンザワクチンの積極的な接種を強く推奨 します

我が国における新型コロナウイルス感染症（以下、COVID-19）は、2020 年 1 月 15 日に初めての感染者が報告されて以降、現在までの累計感染者（PCR 陽性者）は、1,689,899 名、死亡者数は 17,421 名（2021 年 9 月 25 日現在）<sup>1)</sup> に上っています。また、新型コロナワクチンの接種率は我が国全体で 1 回目接種率 67.8%、2 回目接種率 55.8%、65 歳以上では 1 回目接種率 90.2%、2 回目接種率 88.8%（2021 年 9 月 24 日現在）となっています。<sup>2)</sup>

一方、これからの季節は例年であればインフルエンザの流行期を迎えることとなります。昨冬の 2020-2021 年シーズンにおいては、1.4 万人のインフルエンザの感染者<sup>3)</sup> であり、2019-2020 年シーズンの感染者<sup>4)</sup> の 500 分の 1 以下と少ない感染者でした。これには、COVID-19 流行により受診行動が 2019-2020 年シーズン以前と大きく異なったこと、COVID-19 対策としての三密回避、人流抑制、飛沫感染対策、および手指衛生等の予防策が、インフルエンザに対しても有効であったことなどが要因として考えられます<sup>5)</sup> が、2021-2022 年シーズンの流行を見通すのは非常に難しい状況です。

現在国内における COVID-19 の流行は第 5 波の患者数は減少しつつありますが、これから迎える冬季において、再度 COVID-19 患者数が増加しインフルエンザの流行期が重なることによる外来受診患者の増加や医療体制の逼迫も懸念されます。また前シーズン、インフルエンザに罹患した人は極めて少数であったため、2021-2022 年シーズンにはインフルエンザの感受性者が増加している可能性も考えられます<sup>6)</sup>。

以上の点から、**予防接種推進専門協議会は、2021-2022 年シーズンにおいても、インフルエンザワクチンの接種を強く推奨します。**

今年度のインフルエンザワクチンの供給量に関しては、製造効率の高かった昨年度と比較すると少ないが、例年の使用量に相当する程度は供給される見込みです。ただ昨年度よりも遅れたペースで供給されるため、2021 年の 10 月第 5 週の時点では出荷見込み量が全体の 65%程度の出荷量にとどまり、11 月から 12 月中旬頃まで継続的にワクチンが供給される見込みであると厚生労働省からの通知<sup>7)</sup> が出されています。したがってインフルエンザワクチンを効率的に使用することが求められ、昨年同様に 13 歳以上は原則 1 回接種となります。

● **高齢者やリスク因子を有する人は、インフルエンザ罹患後の続発性細菌性肺炎の予防も重要です**

季節性インフルエンザの流行に伴い、インフルエンザに続発する細菌性肺炎（二次性細菌性肺炎）が問題となり、その原因菌は肺炎球菌が多いと報告<sup>8)</sup>されています。また、肺炎、特に肺炎球菌性肺炎は高齢者や基礎疾患があることで罹患のリスクが高くなる<sup>9)</sup>ことが知られており、高齢者の肺炎予防に対して、インフルエンザワクチンと肺炎球菌ワクチンを併用して接種することが推奨<sup>10)</sup>されています。当協議会では、COVID-19 流行下においても、ワクチンで予防できる疾患に対しては積極的にワクチン接種を行い、公衆衛生体制と医療提供体制の維持につなげる必要があります。定期接種に限らず任意接種のワクチンについても年齢・基礎疾患・感染リスクなどの状況から推奨される人を対象に、積極的に接種していくことが、きわめて重要である<sup>11)</sup>ことを表明しております。

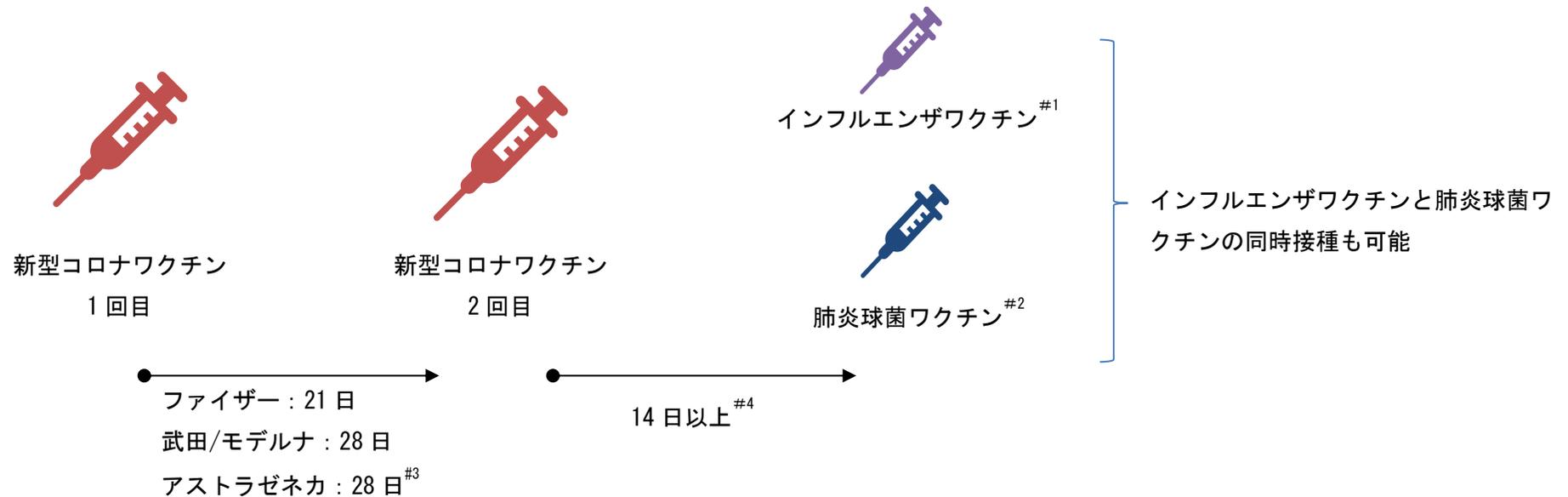
インフルエンザ、細菌性肺炎に罹患すると重症化しやすい高齢者および基礎疾患を有する方については、COVID-19 ワクチンの2回の接種を優先しつつ、適切なタイミングでインフルエンザワクチン、肺炎球菌ワクチンを接種することが感染症対策の観点から重要です(図)。肺炎球菌ワクチンには23価莢膜多糖体ワクチン(PPSV23)と13価結合型ワクチン(PCV13)の2種類がありますが、定期接種対象の65歳以上の高齢者にはPPSV23の接種が優先されます。最近、65歳以上の5年経過措置において、2019年度の定期接種実施率の低下(13.7%)が報告されたこともあり、より一層の接種率向上が求められています<sup>12)</sup>。定期接種対象外の65歳以上の高齢者(過去に定期接種でPPSV23を接種し、再接種に該当する高齢者を含む)および6歳から64歳までの基礎疾患を有するハイリスク者にはPCV13-PPSV23の連続接種が選択肢となります<sup>13)、14)</sup>。

【文献】

- 1) 厚生労働省ホームページ  
[https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2\\_1](https://www.mhlw.go.jp/stf/covid-19/kokunainohasseijoukyou.html#h2_1)  
(2021年9月25日閲覧)
- 2) 首相官邸ホームページ 新型コロナワクチンについて  
<https://www.kantei.go.jp/jp/headline/kansensho/vaccine.html>  
(2021年9月25日閲覧)
- 3) 厚生労働省 インフルエンザに関する報道発表資料 2020/2021 シーズン 2021年3月12日インフルエンザの発生状況について  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000752481.pdf> (2021年9月14日閲覧)
- 4) 厚生労働省 インフルエンザに関する報道発表資料 2019/2020 シーズン 2020年4月10日インフルエンザの発生状況について  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000620714.pdf> (2021年9月14日閲覧)

- 5) 日本感染症学会提言「今冬のインフルエンザと COVID-19 に備えて」  
[https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/2012\\_teigen\\_influenza\\_covid19.pdf](https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/2012_teigen_influenza_covid19.pdf)
- 6) 日本ワクチン学会「2021-22 シーズンの季節性インフルエンザワクチンの接種に関する 日本ワクチン学会の見解」  
[http://www.jsvac.jp/pdfs/JSVAC\\_2020-21flu210622.pdf](http://www.jsvac.jp/pdfs/JSVAC_2020-21flu210622.pdf)
- 7) 厚生労働省「季節性インフルエンザワクチンの供給について」(2021年9月10日)  
<https://www.mhlw.go.jp/content/000831140.pdf>
- 8) 日本呼吸器学会 インフルエンザ・インターネット・サーベイ(2019-2020年シーズン)  
[https://www.jrs.or.jp/iis/summary\\_graph.php](https://www.jrs.or.jp/iis/summary_graph.php) (2021年9月14日閲覧)
- 9) Imai, K. et al. :BMJ Open8 (3) :e018553, 2018
- 10) 日本呼吸器学会成人肺炎診療ガイドライン 2017 作成委員会:成人肺炎診療ガイドライン 2017 第1版 日本呼吸器学会:155, 2017
- 11) 予防接種推進専門協議会「新型コロナウイルス感染症流行時における、既存ワクチンの接種率向上等による感染症予防の重要性に関する声明」(2021年3月11日)  
[http://vaccine-kyogikai.umin.jp/pdf/210311\\_statement\\_new-coronavirus-infections\\_existing-vaccines-increase\\_importance-prevention.pdf](http://vaccine-kyogikai.umin.jp/pdf/210311_statement_new-coronavirus-infections_existing-vaccines-increase_importance-prevention.pdf)
- 12) 定期の予防接種実施者数(厚生労働省)  
(<https://www.mhlw.go.jp/topics/bcg/other/5.html>)
- 13) 日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討委員会/日本感染症学会ワクチン委員会・合同委員会:「65歳以上の成人に対する肺炎球菌ワクチン接種に関する考え方(第3版)」(2019年10月30日)  
[https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/o65haienV/o65haienV\\_191030.pdf](https://www.kansensho.or.jp/uploads/files/guidelines/o65haienV/o65haienV_191030.pdf)
- 14) 日本呼吸器学会呼吸器ワクチン検討委員会/日本感染症学会ワクチン委員会/日本ワクチン学会・合同委員会:「6歳から64歳までのハイリスク者に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方」(2021年3月17日)  
[https://www.jrs.or.jp/uploads/uploads/files/guidelines/haien\\_kangae20210520.pdf](https://www.jrs.or.jp/uploads/uploads/files/guidelines/haien_kangae20210520.pdf)

図 2021-2022 年シーズンにおけるインフルエンザワクチン等の接種に関する考え方のイメージ



# 1：2021年10月第5週の時点では出荷見込み量全体の65%程度の出荷量にとどまる一方、11月から12月中旬頃まで継続的に供給される見込み

厚生労働省「季節性インフルエンザワクチンの供給について」（令和3年9月10日）<https://www.mhlw.go.jp/content/000831140.pdf>

# 2：肺炎球菌ワクチンは23価莢膜多糖体ワクチン（PPSV23）と13価結合型ワクチン（PCV13）の2種類存在する。安定供給の観点から、定期接種の該当の高齢者には、PPSV23を優先する。定期接種の該当年齢以外の65歳以上の高齢者（過去に定期接種でPPSV23を接種し、再接種に該当する高齢者を含む）および基礎疾患を有する方にはPCV13- PPSV23の連続接種\*を検討する。

\*：「6歳から64歳までのハイリスク者に対する肺炎球菌ワクチン接種の考え方」（2021年3月17日）[https://www.jrs.or.jp/uploads/uploads/files/guidelines/haien\\_kangae20210520.pdf](https://www.jrs.or.jp/uploads/uploads/files/guidelines/haien_kangae20210520.pdf)

# 3：各ワクチン添付文書。（なお、新型コロナウイルス感染症に係る臨時的予防接種実施要領<https://www.mhlw.go.jp/content/000786661.pdf>によると、アストラゼネカ社のワクチンについては、最大の効果を得るためには55日以上の間隔をおいて接種することが望ましいことに留意すること。）

# 4：厚生労働省 新型コロナウイルスワクチンQ&A <https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0037.html>